

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 66人

② 算数 66人

5 留意事項

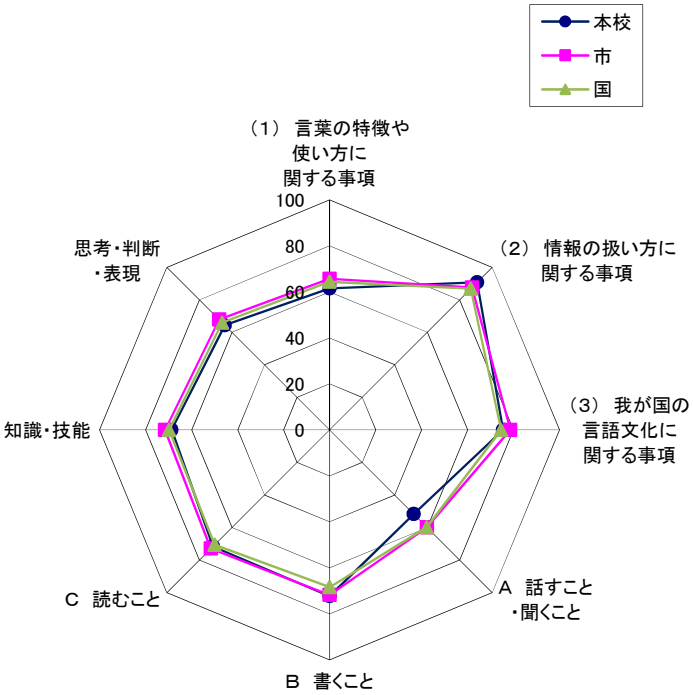
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	61.5	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	90.8	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	75.4	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	51.8	59.9	59.8
	B 書くこと	72.3	71.8	68.4
	C 読むこと	71.8	72.9	70.7
観点	知識・技能	68.7	71.5	69.8
	思考・判断・表現	64.4	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

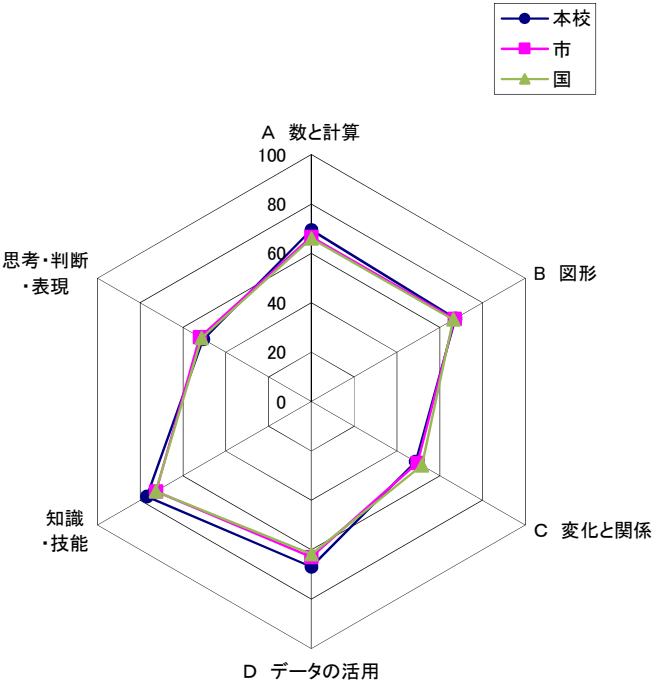
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は、61.5%で全国の平均より低い。 ○文章の内容の特徴を捉えて、述語から主語を正しく見付けることができています。 ●漢字を正しく使うことに課題が見られる。	・例文を通して漢字を覚えさせたり、同音異義語の確認を行ったりして、漢字を練習する活動を増やしていく。
(2) 情報の扱いに関する事項	平均正答率は、90.8%で全国の平均より高い。 ○情報と情報との関連付けの仕方、図による語句と語句との表し方を理解することができています。総合的な学習等で、ウェブマップを作る活動に取り組んでいる成果であると考えられる。	・説明文の中で、情報を仲間分けしたり、語句と語句の関連性を見付けて整理したりする活動を続ける。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、75.4%で全国の平均よりやや高い。 ○●日常的に読書に親しみ、校内で「読書のあしあと」や「家読カード」の記録を実施しているため、読書活動は自分の考えを広げるのに有効であることに気付いていると思われる。しかし、選択制の解答方法だったにも関わらず、無回答率が全国平均より高いことから、最終問題だったために時間内に終わらなかったのではないかと仮説が立てられる。	・読書をしたときに感想を書くよさを指導するとともに、テストの際に解答にかけける時間を見通し、自分なりに効果的に問題を解く時間配分を考えられるように指導する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は51.8%で全国平均より低い。 ●伝え合う内容を検討することや自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題が見られる。	・話し合い活動の中で、メモを書く、話し方を工夫するなど、自分の意見や考えを整理し、伝え合う活動を増やしていく。
B 書くこと	平均正答率は72.3%で全国平均より高い。 ○集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。 ●自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られる。	・文章を書いたりまとめたりする活動を多くの教科の中で取り入れる。 ・友達の書き方の良いところを自分の文章表現に生かすなどして書くことへの支援をする。
C 読むこと	平均正答率は71.8%で全国平均よりやや高い。 ○登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えたり、人物像を具体的に想像したりすることがよくできている。 ●表現の効果を考えることに課題が見られる。	・物語文や説明文を読み取る活動の中で、描写の要点となるキーワードを押さえ、表現の工夫を読み取れるようにする。

宇都宮市立陽南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	69.5	66.7	66.0
	B 図形	67.3	66.9	66.3
	C 測定			
	D 変化と関係	48.7	49.6	51.7
	D データの活用	66.9	62.9	61.8
観点	知識・技能	76.9	72.6	72.8
	思考・判断・表現	50.5	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は69.5%で、全国の平均より高い。 ○数量の関係を口を用いた式に表すことや除法の計算はよくできている。 ●示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題が見られる。	・問題文の内容を正確に捉えられるよう繰り返し指導を行うとともに、今までの知識から工夫して答えを導き出す言語活動を多く取り入れ、求め方と答えを式や言葉を用いて表現する力を伸ばしていく。
B 図形	平均正答率は67.3%で、全国の平均よりやや高い。 ○直方体や円柱の意味や性質についてよく理解している。 ●角柱の性質の理解において課題が見られる。	・いろいろな角柱の頂点や辺、面の数を調べたり、見取り図や展開図を描く練習を繰り返し行い、角柱の構成要素についての理解に努める。 ・習熟度別学習で、児童一人一人の実態に応じた指導支援を充実させていく。 ・一人一台端末を用いて実際にプログラミングを行い、視覚的に捉えながら、図形の性質や定義についての理解を深めていく。
C 変化と関係	平均正答率は48.7%で、全国の平均より低い。 ○速さの意味についての理解はよくできている。 ●一定の速さのもとでの道のりと時間の関係について考察することや、道のりが等しい場合の速さについて、時間をもとに判断して理由を言葉で説明することに課題が見られる。	・速さと道のりと時間の関係についての理解の定着を図るとともに、一つの値が一定のときの他の二つの値の変化について考察する学習を進め、その理由について言葉で説明する機会を増やすことにより表現力を高める。
D データの活用	平均正答率は66.9%で、全国の平均より高い。 ○円グラフの特徴を理解して割合を読み取ること、二次元の表のデータを読み取って分類整理すること、折れ線グラフから読み取ったことを言葉と数を用いて記述すること、必要な数値を読み取って式に表し基準値を超えるかどうか判断することについてよく理解している。	・社会や理科など、統計資料や実験データを扱う単元との関連も図りながら教科横断的な指導を行い、表やグラフを読み取る力や、読み取ったことについて言葉で表現する力をさらに高めていく。

宇都宮市立陽南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○●「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」の問いに対する肯定割合は80.3%で全国の平均と比べて2.6ポイント低い。一方、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」の問いに対する肯定割合は94.0%と全国の平均と比べて2.4ポイント高い。曜日によって睡眠時間が変わっている傾向にある。遅刻して登校する児童も多いので、生活リズムを整えることの大切さや生活リズムが学習への取組に与える影響などについて指導を継続したい。

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。（遊びなどの目的に使う時間は除く）」の問いに対して1時間以上と回答した児童の割合は30.4%で全国の平均と比べて10.6ポイント高い。また、「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」の問いに対して1時間以上と回答した児童の割合は43.9%で全国の平均と比べて7.2ポイント低い。常時指導や懇談会での啓発、出前授業等の効果があったと思われる。引き続き情報機器に関する指導を継続していく。

●「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。」の問いに対して2時間以上と回答した児童の割合は56.1%で全国の平均と比べて6.9ポイント高い。習いごとやスポーツ少年団等の活動をしていゝ児童も多いことから、放課後の時間の使い方を工夫するよう指導したり、家庭へ啓発したりしていきたい。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」の問いに対してほぼ毎日と回答した児童の割合は74.2%で全国の平均と比べて48.9ポイント高い。また、その後のICT機器を活用した効果に関する問いでも全国の平均より高い肯定的回答割合であった。一人一台端末を活用できる場面では、様々なソフトを使って授業に組み込んできた成果の表れだと思われる。

●「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の問いに対する肯定割合は69.7%、「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。」の問いに対する肯定割合は71.2%と、それぞれ全国の平均と比べて12.2ポイント、8.4ポイント低い。自分の考えを整理してまとめられるよう学習シートを工夫したり、一人一台端末を活用して学習のまとめをしたりしてきたが、進んで自分の考えをまとめたり、課題解決に向けて取り組んだりしようとする態度の育成までには至らなかった。授業形態や教材等をさらに工夫して、重点的に取り組んでいきたい。

宇都宮市立陽南小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の確実な定着	・少人数、習熟度別など、単元や活動に応じて、TTを効果的に活用した個に応じた指導を行う。 ・朝の学習の時間にAI型学習ドリルの活用も含めた国語・算数の学習を行ったり、授業において漢字のミニテストや計算練習等を繰り返し行ったりするなど、学習内容の確実な定着を図る。	・国語の「書くこと」、算数の「数と計算」において、全国平均を上回る結果となった。国語の「話すこと・聞くこと」においては、全国平均を下回る結果となった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
話し合い活動において、自分と友達との考えの違いを意識してまとめたり、伝え合ったりすることについて、肯定的に捉えている児童が多いが、文章に書くことに対して苦手意識を感じている児童が多い。	児童の自己表現力を高める言語活動の工夫	・自分の考えを書く学習を意図的に取り入れ、課題に合った表現方法を発達段階に応じて身に付けられるように指導していく。また、その基本となる漢字や言葉の正しい表記や文法なども併せて指導する。 ・少人数での話し合い活動を通して、自分の考えを交流することにより、考えに根拠をもてるようにしたり、全体で発表する際の抵抗を減らしたりして、自信をもって意見を発表できるようにする。